第九章

實務家

汝其務に勤勉なる人を見るか、彼は國王の前に立つべし。

ソロモンの箴言

實務及び仕事に堪ふるやう教養せられざる人は、世の下等なる人なり。

オーエン・フェルザム

ハズリットが實務家の定義

ハズリットは、其巧妙なる論文の一に於て曰く、實務家は習歩車(譯者註、go-cart を假に習歩車と名く、小兒が歩行を習ふとき、傍に之を支へながら轉じ行く車なり)に入れられ、一の職業に縛られたる卑き人なり。平坦なる道より出づることなくして、自己の事業をして其道を取らしむるのみと。彼は言ひぬ『普通』の事務を取り扱ひて繁盛する大要件は想像の缺乏なり、最も狹き範圍に於ける習慣、利益等の考の外、他に思想を有せざることなり』と。されど此說の如きは、偏見、不眞實の甚だしきものなり。勿論此世に狹量なる科學者、狹量なる文學者、狹量なる立法家のあるが如く狹量なる實務家のあるは事

實なり。然りと雖も世には廣く百般の事に適する大度量の實務家もあるなり。バーク(譯者註、十九世紀、英の政治家、政論家)が印度法案についての演說に言ひしが如く、世には小賣商の如き政治家もあり、政治家の心を以て行動する商人もあるなり。

重要なる性能

重要なる事業を成就するに必要なる性能は、曰く特種の才能なり。曰く大事の場合の敏活なり。曰く多數人の勤勞を統一する能力なり。曰く大なる機慧なり。曰く人間の性質を知ることなり。曰く不斷の自修なり。曰く人生實務の經驗の成長なり。吾人若し是等の性能の大事の成功に必要なるを思はゞ、『事務の學校』は、或文士等の吾人に信ぜしめんとするが如き狹きものにはあらずと感ず。ヘルプス氏(譯者註、十九世紀英の歷史家、論文家)は曰く『完全なる實務家の世に稀なること、殆ど大詩人の世に稀なるが如し。――思ふにかの尊敬すべき聖徒や殉教者よりも尙ほ稀ならん』と。此言眞に眞理に近よれりと謂ふべし。げに『事務は人を造る』と云ふ語は、此事に於て最も力强く言はるゝものなり。

天才の人、事務の人

『天才の士は事務に適せず』と云ふ語は『事務的の事業は、人をして天才の追求に不能ならしむ』と云ふ語と共に、愚人の好んで抱く謬想なり。數年前自殺せし不幸の青年ありしが、此者の自殺の理由は『人と生れながら雜貨商となり果てたり』と云ふにありき。此青年や、自己の精神が雜貨商だけの威嚴をも有せざるを證明せるなり。職業が人を卑くするにあらず、人が職業を卑くするなり。手の仕事なりとも、心にての仕事なりとも、正直なる利益を持ち來すものは貴きなり。指は汚るゝこともあらんされど心の純潔は汚るゝなし。人を卑うするものは物質的汚穢にあらずして、寧ろ精神的汚穢なり、汚物にあらずして貪心なり、綠青にあらずして惡德なり。

最も偉大なる人は、生活の爲め正直有益に勤勞するを賤しとせざるも、唯同時に向上進步を願ひしのみ。希臘七賢人の第一なるターレス、雅典の第二の建設者ソロン、及び數學家ピペラテスは皆商人なりき。プラトー(譯者註、希臘の大哲學者)は其智慧の秀拔なるを以て神人と稱せられし程なるが、埃及に旅行するや、行々油を賣りて其利を以て旅費を辨じたり。スピノザ(譯者註、

近世の獨の大哲學者)は其哲學研究を續くる間、玻璃を磨きて生計を營めり。大植物學者リンネウスは革を槌ち、靴を造りつゝ、其研學をなせり。シェークスピーア(シェークスピーア)は一劇場の支配人として成功せり。――彼恐らくは其脚本、詩等を作る伎倆よりも、其かゝる實際的技能の方を多く誇りしならんか。ポープ(譯者註、十八世紀英の詩人)の信ずる所に據れば、シェークスピーアの文學を修めし趣旨は、正當なる獨立を確保せん爲めなりと。まことやシェークスピーアは文學上の名聲については毫も心に關する所なかりしが如し。彼が一劇詩の出版を管理せしとか、印刷を是認せしとか云ふことを聞かず、其著作の順序も甚だ明かならず。されども彼が其事業に繁盛せしこと、充分の財を得て其生れし町なるスタットフォルド・アッポン・アヴォンに退きしことは事實なり。

チョーサー(チョーサー)　チョーサー(譯者註、十世紀英の文人にして英國文詩の祖なり)は早年にして軍人たり、後稅關の委員として令名あり、後また森、宮室所有地の視察官たりき。スペンサー(スペンサー)(譯者註、十九世紀英の大哲學者)はアイルランド總督の秘書

官たりしが、後コーク州の知事となる、事務に當るや敏捷にして注意深かりきと。ミルトン(ミルトン)(譯者註、十七世紀英の大詩人)はもと校長たりしが、クロムウエルの共和政治の時選ばれて內閣秘書官となる。內閣の現有せる記錄も又今遺れる多數の彼の書簡も、共に此職にて彼の活動し功績ありしことを證せり。サー・アイザック・ニュートン(ニュートン)(譯者註前出大科學者)は、造幣局長として才幹あるを示せり。彼の直接監督の下に千六百九十四年の貨幣鑄造は行はれたるなり。クーパー(クーパー)(譯者註、十九世紀英の詩人)は其事務を執るに正確なるを誇れり。彼自ら曰く『余は詩人にして執務に正確なる者を見ず、たゞ余だけは別なり』と。然れども、之に對して吾人はヲルヅヲルス及びスコット(チルヅヲルス、スコット)(譯者註、前出、共に詩文の士)の生涯を擧げん。――ヲルヅヲルスは印紙の配布人、スコットは蘇格蘭(スコットランド)民事高等法院の書記なり。――此二人、ともに大詩人なりと雖も、著しき正確にして實際的なる實務家なりき。ダヂッド・リカード(リカード)(譯者註、十九世紀、英の經濟學者)は、倫敦の株式賣買人として日々の務ある中に(彼は此商賣にて大利を得たり)其好む所に其心を集中するを得、之に大に光を與へた

り。好む所とは何ぞ。曰く經濟學の原理これなり。蓋し彼は智算ある商業家なると同時に、深奥なる理學者たるなり。有名なる天文學者ベーリー、また株式仲買人なり、化學者ナレンは絹製造人なりき。

グロート

ジョン・スチュワート・ミル

最高なる智力は、日々の務の實行と兩立し難きものにあらず。此事實については現時に於て吾人は多くの例證を有せり。希臘の歴史に通ずるを以て名高きグロートは、倫敦の銀行家なり。長き以前のことならざるが、現存最大思想家の一人なるジョン・スチュワート・ミルは、東印度商會の檢査局より退きたりしに、同僚の賞讃尊敬少々にあらざりしが、こは其哲學意見の高きがためにあらず、職に在る時築きたる高き才幹のため、又其局の職に當る時の遺り方の遺漏なき爲めなり。

成功に必要なる勤勞專心

事務に成功するの道は、常に常識の道なり。事務の成功に忍耐、勤勞、專心の必要なること、知識の獲得や、科學の研究に於けると等し。古の希臘人は言へり『何職に於ても、能者とならんには、三事が必要なり、――曰く天性、勉強、實行』と。事務に於て、實行力を賢く且熱心に改善するは成功の秘訣なり。中には『う

まく山をあてる』人もあらん。されど賭博にて得し金と等しく、『山仕事』にて得し金は、人を破滅に誘ふ原因をなすに過ぎず。ベーコンの常に言ふ所に曰く『事務に於ても道路に於けると等しく、最近路は重もに最惡路なり。されば人若し善路を往かんと思はゞ、やゝ遠廻りをする覺悟なかるべからず』と。旅行は長時間を要すゝならん。然れども、それに含まるゝ勤勞の快と結果を生ぜしときの喜びとは、尚ほ大に純粹至醇のものなるべし。つまらなき小事と雖も、日々定まれる仕事を持つことは、其餘の時間を心地よくする原因となる。

メルボーン卿の忠言

ハーキュリス(譯者註、希臘人の神と信ぜしもの、腕力甚だ大なりと)の勤勞の寓話は、凡て人間の行動及び成功の標本なり。青年の幸福、安穩は、主として自身及び自身の精力の發揮に據るものにして、他人の幇助、恩惠に據るものにあらず。青年は宜しく此事を感ぜしめられざるべからず。故メルボーン卿(譯者註、十九世紀英の政治家)が、ジョン・ラッセル卿(譯者註十九世紀英の政治家)に與へたる書簡の中に一片の有益なる忠言あり。此書簡は詩人ムーアの

子が扶持の請願に答へたるものなり。『我親しきジョンよ、余はムーアの手紙を御身に返す。吾等方法を持つときには、此事について御身の好む通りになさんと用意すべし。余は思ふ、爲すときにはムーア自身の爲めになさゞるべからず。此方大に明確直截にして解り易し。青年に少量の扶持をなすことは正しと謂ふべからず。これ青年に最も害をなすものなり。かくせば彼等は自己を過重し、發憤努力をなさず。青年の聽くべき言葉たゞ一あり、此以外は聽かしむべからず。曰く御身は自ら自分の行路を造るべきなり、御身の餓死するとせざるとは御身自身の努力に由ると。御身の信實なる友メルボーン』と。

實地的勤勉は、賢く強く用ひらるゝときは、常に其適當なる効果を奏してあやまるなし。實地的勤勉は、人を前進せしめ、其個人的人格を表現し、他人の行動を勵ます。萬人同樣に向上はせざるべし、されど大體に於て各人皆自己の價値によりて然す。タスカニー（譯者註、伊太利の一部なり）の諺に曰く『萬人皆廻廊の上に住むことは能はずとも、各人皆頂點には觸れ得べし』と。

難の學校は瓦校なり

法律に成功する條件

勤勉なる建築師

凡そ、人間生涯の行路の餘りに易からんことは、宜しからず。萬事をなすに都合よく、また臥するに都合よきよりは、寧ろ勤勞粗食の必要にあることこそ宜しけれ。少き便利を以て人生の行路に出立するは、勞作の刺戟として甚だ必要なるが如く見ゆ。されば此事を以て人生に於ける成功の必須條件と定めて宜しき程なり。かゝれば、有名なる一判官、其職の成功に最も資したるものは何ぞ、と問はれしとき、答へて曰く『大才に依りて成功するものもあらん、門地の高きに依りて成功するものもあらん、奇蹟に依りて成功するものもあらん、されど大多數は一志（シルリング）もなくして始めしに依りて成功す』と。

絶妙の技能ある一建築師あり、久しく學習して大に自己を磨き、又東方の希臘、羅馬等に遊びて大に得る所ありしが、其職に從はんとて家に歸れり。彼は雇はるゝ所は何處にても其業を始めんと決心せり。されば先づ第一に家屋破壞の業に從ひたり。家屋破壞と云へば建築師の業の中、最も卑く最も報酬少きものなり。然れども、彼は志善きものにして、此業を賤まず、進歩發展の途に歩まんと決心しぬ、故に成功の見込や充分なりき。炎暑燒くが如き七月

勞作の健全なる影響

の或日、友彼が屋根の傍に坐して家屋破壞の業に從事するを見たり。彼其汗ばみたる顏を、手にて擦りて曰く『希臘全土を渡り來りし人に對して、如何に良き仕事ぞ』と。さりながら彼は其仕事をなしぬ、眞面目に、充分に、善く、之を爲しぬ。彼は堅忍にして報酬のよき業に次第々々に進み、遂には其職の最高路に上りぬ。

勤勞は個人に於ける各進步、國民に於ける文明の主因主源なりと謂ふべし。而して最も人に大害をなすものは、己自ら努力することなく、希望、欲求、奮鬪すべきものなくして、只欲望の滿足を求むることなり。人生に活動の動機も必要もなしとの考は、人間にとりては何よりも最も有害無益の考なり。スピノラの侯爵がサー・ホレース・ヱーレに尋ぬるに、其兄弟の死因を以てせし時、サー・ホレース答ふらく『貴下よ、彼は爲すべき仕事を有せざりしが故に死せり』と。スピノラ之に應じて曰く『あゝ、これ實に吾等の將軍を誰にても殺すに充分なるものなり』と。

さりながら、人生に失敗せし者は、往々にして、自己に罪なく、人に傷けられ

算術輕蔑の結果

しものと思ひ易く、輕躁にも早く論定して曰く、自己の不幸には自己以外の萬人皆責ありと。有名なる一文士近頃一書を著はしぬ。中に彼は自己が實業上の種々の失敗を記載し、素朴にも告白して曰く、これ己が乘法表(九々)を知らざりしに因ると。而して尙ほ論定して曰く、我失敗の眞原因は當代の拜金的精神に由ると。ラマルチン(譯者註、十八世紀佛の文士)も、亦其算術嫌ひなることを公言するを躊躇せざりき。ラマルチン後年に及びて貧窮に迫り、其弟子、師が老餘の扶持のため寄附金を集め廻りたりき。まことに陋しき事と謂ふべし。若しラマルチンにして其算術嫌ひの度少かりしならば、人々かゝる醜狀を見るに及ばざりしものを。

また中には、己を以て不運に生れたるものとなし、己は何等の罪なきに、世は常に己等に相背反すと決定するものあり。吾人はかゝる種類の人にして、次の如き極端にまで走る人あるを聞けり。此人の信ずる所に曰く、我若し帽子製造者たりしならば、世人は皆頭なくして生れんと。されど茲に露西亞の諺あり、曰く『不運』は『愚鈍』の隣なりと。絕えず自己の不運を歎じ居るもの、

所謂「社會」の不正に關する博士ジョンソンの語

實は自己が怠慢遣り損ね、不用意、不勉强の結果を刈り居るに過ぎざる場合多し。博士ジョンソン、倫敦に來りしとき、衣嚢に有する所一ギニアのみ。其一貴族に與へたる書翰の記名には自ら『食を取る能はざる者』と記せしことあり。されど彼正直にも曰く『此世についてなす凡ての不平の言は不正なり。余は價ある人の輕しめられしを知らず、其成功をなし得ざるもの、一般に自己の罪なり』と。

ワシントン・アーヴィングの意見

米國の文人ワシントン・アーヴィング、また同樣の意見を抱けり。彼曰く『內氣なる性質の人は、顧みられずと云ふもの、實は怠惰、薄志の徒が、自己の不成功を社會の罪に歸せんとする僞善の言のみ。さりながら內氣なる性質は、無活動、怠慢、無修養になり易し。熟練訓練の屆きたる才幹は、之を使用するならば位置を得ること確かなり。されど家に退隱し居りて人の我を求むるを俟つべからず。內氣の人は閑却せらるゝに反し、奮進直往の人は大に成功すとて、世人の之を誹謗すること度に過ぎたり。敏捷、活動など云ふ貴き性能を缺くときは、人の値も用に立たぬものなるが、右の直往邁進者流が、屢々此性能を

事務に必要なる實際的性能

有することあり。吠える犬は眠れる獅子より有用なること屢々なり』と。

注意、專心、正確、方式、時間の嚴守、敏捷は、如何なる種類を問はず、實務の處理に要する主なる性質なり。是等は最初は小事の如く見ゆべし、されど是皆人間の幸福、安穩及び要用に最も必要なるものなり。まことに是等は小事ならん、されど由來人間の生涯は小事より成り上り居るものなり。小事の反復こそ人間品性の全額を組織するのみならず、また實に國民の品性を決定するものなり人にても、國民にても、其失墜したる時には、小事を忽せにせしことが、實に其原因なりしことを見出すこと常なり。各人は皆爲すべき職分あり。故に之を爲すべき能力を修養する要あり。(其職分が家政のことにても、職業を營むことにても、或はまた國民を治むることにても)。

工藝、藝術、科學等の種々なる方面に於ける大勞作者について、吾人のこれまで與へ來りし例甚だ多きを以て、人生の業務に於て堅忍專心の必要なることを是れ以上言ふ要なかるべし。細事に確實に注意することが人間進歩の根源なることは、日々の經驗の吾人に示す所なり。而して此勤勉が、何より

正確の重要

も幸運の母たるなり。正確も亦重要なるものにして、良き教養の標徴たり。―觀察の正確、言語の正確、事件處理の正確等皆然り。事務に關して爲すことは之を善くなすべきなり。蓋し少量の仕事を完全になすは、之に十倍する仕事を半成するに勝れり。一賢者常に言ひぬ『暫し止まれ、然らば却て早く終結するを得べし』と。

さりながら、世人は此正確と云ふ甚だ重要なる性質に注意すること少きに過ぎたり。實地の經驗に卓越せし人、近頃吾人に告げて曰く『余が今日まで遇ひし人にして、一事を正確に定義し得る人驚くべきほど稀なり』と。實務に於ては、小事をすら取り扱ふ仕方が、諸君の味方を造り敵を造るなり。習慣的に不正確なる人は、德行あり、能力あり、他の點に於ては善行ありと雖も、信ずるに足らず、其爲す所一度にして完成せずして再び繰り返さゞるべからず。かくの如くにして此人や絶えず煩苦困難に遇ひ、悶々の情を續けん。

チャールス・ジエームス・フォックス

其爲す所何事に限らず、之に勞苦せしこと、チャールス・ジエームス・フォックスが特性の一なり。其國務大臣に任ぜられし時、其筆跡の拙惡なる由を言

ばれて打ち腹立ち、直に習字の先生を傭ひて、恰も小學生徒の如く字を習ひ、遂に充分文字に上達せしと云ふ。彼身體肥大なりしも、其庭球技をなすとき、敵手のきりたる球を打ち返すことの敏捷さは、唯不思議と云ふの外なし。或人如何にして此業に達せしかと問ひしに、彼戯れに答へて曰く『そは余が甚だ勞苦する人なればなり』と。小事に於て表はす所の『正確』を彼は亦大事に於てもあらはせり。彼はかの畫工の如く『何事をも忽にせざること』に依りて其名聲を獲たり。

方式

『方式』は緊要なるもの、之に依るときは仕事を多く且充分に爲すことを得。牧師リチャード・セシル言ひぬ『方式は物を箱に收むるが如し。巧手は同一の箱に拙き者の二倍を入るゝを得』と。セシルが事務を處理するの巧妙迅速は非常なりき。彼の格言に曰く『多くの事をなす最捷徑は、一度に唯一事を爲すにあり』と。而して彼は暇あるとき再び爲さんとて一事を半途に止むることなかりき。其事務の堆積し來るや、彼は仕事の一部を除かんよりは、寧ろ食事休息等の時間を短縮せり。デ・キットの格言もセシルの格言に似たり。曰く

リチャード・セシル及びデル・キット、二人の事務の處理

『一度には一事』と。彼は言ひぬ『余にして必要なる處理のなすべきものあるときは、此事の終るまでは更に他事を思はず、若し家事にして余が注意を要するもの起らば、その整頓するまでは其事に全心を注ぐ』と。

時の價値

佛蘭西の一大臣、事務の處理に巧なると、其絶えず遊戯觀樂の場に臨むことゝを以て名高かりしが、或人如何にして事務の敏捷と遊樂の不斷とを兼ね得るかを尋ねたり。かの人答へて曰く『たゞ今日爲すべきことを明日まで延ばさゞるによる』と。ブルーハム卿の話に、英國の一政治家、事々に敗るゝものありしが、此者の格言は明日まで延ばし得る事は、決して今日爲すべからずと云ふなりきと。不幸にも此施政者のみならず、今日まで此格言を行ひし人幾許なるを知るべからざらん。是れ誠に懶惰者失敗者の爲す所なり。由來他人には常に據り得べきものならざるに、かゝる人は常に他人に據らんとしつゝあり。重要なる事件は、一人にて之に當らざるべからず。諺にこれあり『御身事務の成らんことを欲せば、往きて之を爲せ、若し事務の成ることを欲せずは、他人をして之を爲さしめよ』と。

サー・オーター・スコットの忠言

怠惰なる田舍紳士、一年約五百磅の利を出す土地を所有せり。負債に陷りて彼は其所有地の半ばを賣れり、殘れる半分は二十年間勤勉なる農夫に貸せり。二十年の終りに、農夫は借地料を拂ひに行きしが、所有者にかの土地を賣らざるかと尋ねたり。驚きて所有主は言ひぬ『御身それを買はんとや』『然り。若し直段の相談さへ整はゞ』。紳士は言ひぬ『こは誠に不思議にこそ、余土地の二倍を有し居り、而も借地料を拂ふことなくして尙ほ且之より得る所以て生活を營むに足らざりしに、御身は此畠に一年二百磅を滯らず拂ひつつ來りて、而も數年にして之を購ひ得るに至る、其理如何、願はくは正に語りきかせ給へ』と。農夫答へて曰く『理由はたゞこれのみ、御身は靜坐して小作人共に行け。と云ふ、余は立ち上りて來れ。と云ふ、御身は寢床に横はりて其財産を喜ぶ、余は朝起きて我事務に注意す』と。

サー・オーター・スコット、新に一地位を得て其忠告を求め來りし一青年に返書して、次の健全なる忠言を與へたり、『時を充分に用ひざることにより御身を惱ます一習慣あり、此習慣に躓かざるやう注意せられよ、――一習慣

とは、婦人の呼んで以てドッドリング(譯者註、グズ〳〵して時を空費すること)となす所のものを指す。爲すべきことは直に爲せ、而して事務の後に休養の時を取れ、決して前に取る勿れ。一聯隊が進軍し居る際、後部が屢々混雜することあり、これ前部が確實に、阻碍なく、進軍せざるためなり。此事は事務についても同樣なり。目前にある事務が、直に、確實に、整齊に、處理せられずば、他の事務は相堆積し、遂には百事一身に輻輳し來りて、人間の頭腦以て其混亂に堪ふる能はざるに至る』と。

時の價値あることを充分に考へなば、動作敏速の度を增さん。伊太利の一哲學者、『時』を其所有地と呼ぶを常としき。此所有地や、耕耘することなしには價値ある一切をも生ぜざれど、適當に修治すれば勤勉なる勞作者の勤勞に酬ゆるを誤らず。然れども、之を放擲して荒廢するに任せば、たゞ有害無益なる雜草の類を產せんのみ。確實に事に從ふことの小なる利益の一は、そが人をして過失を避けしむるにあり。蓋し、誠に怠惰なる頭腦は惡魔の仕事場なり、而して懶惰なる人は惡魔の褥なり。仕事に從事し居るは、住人ありて之

に住するが如し。然るに怠惰なるは空虛たるなり、而して妄想の戸が開かるるや、誘惑はいと易く近より、惡念は侵入し來るなり。海上船舶の中にあるや船員が不平や背叛に傾き易きこと、其用事の最も少き時の如きはなし。老練なる一船長あり、他に何事の爲すべきものなきときは『錨を掃除せよ』との命令を下すを常としき。

事務家は『時は金なり』との格言を引用するを常とす。されど時は金以上なり。時を適當に利用するは、自修となり、自己改善となり、品格の生長となる。無益の事に、或は怠惰の中に、日々一時間を費すとせよ。今此一時間を自己の改善のために用ひなば、數年にして無智の人を變じて賢者となす。今此一時間を善事に用ひなば、其人の生涯を効果多きものとなし、『死』を以て價値ある事業の收獲となさん。一日十五分間を自己の改修に用ひなば、一年の後は其結果を感ずべし。善思想と、注意して集めし經驗とは、之を貯ふる室を要せず、費用を要せず、邪魔とならずして、吾人の伴侶として何處へも運び行くを得ん。時を經濟的に用ふるは、餘暇を得る眞法なり。之をなすものは事務に逐

はるゝことなくして、事務を遣り通し、事務を逐ひ行くを得。之に反して、時の誤用は、吾人を匆忙、煩雑、困難の中に陷れて已むことなし、而して生活は單に策略の紛亂となり、遂には災禍身に及ぶ。ネルソン提督嘗て曰ひぬ『余は定時の十五分前にあるを常とせり、余の生涯の總ての成功たゞ此習慣の賜なり』と。

世には其有する金を消費し去るまで、金の値について一事をも思はぬものあり而して『時』に關して之と同樣になすもの多し。怠惰者は時の流れ去るに任せ置く、而して漸く人生の老境に近づくや、思へらく、時を善用する職分ありたるものをと。されども不注意と怠惰との習慣は既に固定し終はりしならん、自ら束縛せらるゝを許し來りし其繫累を破ること能はざるなり。失ひたる富は、勤勉に依りて取り返すを得ん、失ひたる知識は、研學に依りて取り返すを得ん、失ひたる健康は、節制と藥用とに依りて取り返すを得ん、然れど失ひたる時間は永久に逝きし、なり。

時の價値を適當に思ふことは、また時間嚴守の習慣を養成せしむ。佛王ルイ十四世は曰ひぬ『時間嚴守は國王の禮儀なり』と。此事は又紳士たるものゝ義務にして、事務家の必要なり。此德を行ふことほど早く人に信用を產むものなく、此德の缺乏ほど早く人の信用を失ふものなし。其約束を固く守りて、人をして宜しく待つことなからしむる人は、己の時間をも他人の時間をも重視するの人なり。かくの如くにして時間嚴守は、吾人が人生の行路に於て遭逢する人に對して尊敬如何を試むる方法の一なり。時間嚴守は、又或意味に於ては、良心に從ふことなり。蓋し一の約束は一の契約をあらはし、又は含むことなり。之を守らざるものは、信用を破り、不正に他人の時間を用ひ、かくして其品格を下すを免れず。吾人は自ら次の結論に來る、曰く時間について不注意なる人は、事務について不注意なり。曰くかゝる人は以て大事を託するに足らずと。ワシントンの秘書官、其登省の遲刻を辯解し、罪を其時計の不正確に歸せしに、ワシントンは靜に曰ひぬ、『然らば御身他の時計を持つべきか、然らずんば余他の秘書官を持つべきなり』と。

時及び其使用を忽緒に附する人は、一般に他人の平和安靜を破るものな

り。ニューカッスルの古侯爵の家宰、賢くも曰く『侯爵閣下は、毎朝一時間を失ひ、後一日中之を求めつゝあり』と。時間を嚴守せざる人と交渉するものは、常に混亂の有樣にあらざるべからず。時間を嚴守せざる人は、常に定まりて晩れ、其不規則なることを更へることなし。彼は恰も一の規則なるが如く、其『時間徒費』を行ふ。約束の處に來るには時間に晩れ、汽車の出發せし後停車場に着し、郵便函の閉ざされし後其手紙を投函す。かくして事務は混雜に陷り、彼と交渉する人は、皆怒らざるを得ざるに至る。かくの如く絶えず時間に晩るる人が、絶えず成功に晩るゝは一般なり。而して世間はかゝる人物を排斥して、幸運に對する不平者の仲間に投ず。

堅固

奇慧

最高の事務家たらんには、普通の勞作的性能の外に神速なる認識力と、其計畫實行上の堅固とを要す。奇慧はまた重要なり、而して奇慧たるや由來一部は天性なりと雖も、觀察と經驗とに依りて修養發達するを得。此性能を有する人は、行動の正法を認むるに早く、若し更に之に加ふるに決斷力を以てせば、其計畫する所を成功せしむるに早し。是等の性能は特に貴きもの、又缺

實務家としてのナポレオン及びウエリントン

くべからざるもの、廣き範圍にて他人の行動を支配する人に於ては殊に然りとす。例へば戰場に於ける一軍の指揮官の如し。將軍は軍人として偉大なること必要なるのみならず、又事務家として偉大なることも必要なり。將軍は大なる奇慧を有せざるべからず、多大なる人性の知識を有せざるべからず、大多數の人(此大多數の人に衣食を給し、其他戰場を保持し、戰に克たん爲めに要するものを、總て供給するは將軍の職務なり)の行動を統一する才能を有せざるべからず。是等の點に於てはナポレオン、ウェリントン共に第一等の事務家なり。

ナポレオン細事に注意す

ナポレオンは細事に注意すること大なりしが、又活潑なる想像力をも有したり。此想像力は彼をして山の如く堆積する事務に意を注がしめ、決斷と迅速とを以て廣く細事に當らしめたり。彼人性の知識を有すること大なりしかば、其企畫の實行を助くるものを選擇するに殆ど誤なきを得たり。然れども重大なる事件にして重大なる結果の相關するものゝ時は、出來るだけ少く其幇助者を信じたり。此點は今出版の途にある『ナポレオン書簡集』に依

「ナポレオン書簡集」

りて著しくあらはされたり、特に第十五卷に於て然りとす。これはアイローの勝利の少時後、千八百〇七年、波蘭(ポーランド)の國境なる一小離宮フィンケンスタインに於てナポレオン皇帝の書したる書簡、命令書、使令等を載す。

此時に當りてや、佛軍はバッサージ河岸に陣營せり。前には露兵あり、右翼には墺地利兵あり、征服せられたるプロシアの兵は後方にあり。敵國を通じて佛蘭西との長距離間の交通をなさゝるべからず。之をなすに其注意の行き屆き、先見の確なるや、ナポレオン決して其職任を誤らざりきと云はるゝ程なり。各軍の運動、佛蘭西、伊太利、西班牙、獨逸の遠地より援兵を招くこと、波蘭及びプロシアの産物を速に陣營に運び來るが爲めに溝渠を開鑿し、道路を改修すること、其他微細の事に至るまで、彼は皆之に意を注げり。彼は馬を得べき場所を敎へ、鞍の適當なる供給のために準備をなし軍人の靴を註文し、麵包、ビスケット、酒精等の軍營に持ち來るべき定量、或は軍隊のため武庫に貯ふるべき定糧を指定せり。之と同時に、彼は巴里に書を出し、佛蘭西大學の再立の指令を發し、公共敎育の制度を規定し、官報に告示、論文を記し、豫算

案の明細表を改め、チューレリス(譯者註、宮殿の在る所の名なり)及びマデレーン寺に加ふべき改正について建築師に差圖を與へ、スタイル夫人及び巴里の新聞雜誌に對して時々諷刺をなし、グランドオペラ(譯者註、劇場の名)の爭論を鎭むるに盡力し、土耳古王、波斯王と文通せり。故に其身フィンケンスタインにありと雖も、其心は巴里、歐羅巴、全世界の各地に於て働けるが如し。

ナポレオンがネー(ナポレオン麾下の部將)に書を與へて、其送る所の小銃が正しく手に入るや如何を問ひしことあり。又ジェロメ公に襯衣(シャツ)、大上衣、衣服、靴、軍帽武器のギルテンバーク聯隊に供給すべきものに關して命令を送り、又カムバセレイに、二倍の穀物を軍隊に送るべきを促せり。——此書に曰く『もしとか併しとか云ふ字は今は時節に合はず、此事や何より先に迅速になさゞるべからず』と。次に彼はダルヌ軍は襯衣を缺乏し居るも未だ到着せずと告げぬ。マッセナに書を送りて曰く『御身のビスケットや麵包の準備整ひしか如何を知らしめよ』と。ベルグ大公に甲兵の軍裝に關して指揮を與へぬ、曰く『彼等は洋劍(サーベル)缺乏せりとて不平を言ひ居れり。ボーセンにて之を獲ん

がため一士官を送れ。又彼等は兜鍪乏せりと言ひ居れり、之をエブリングにて造るやう命ぜよ、・・何事にても人之を成就し得るは、睡眠に依りてにはあらざるなり』と。かくの如くにして如何なる細密の點と雖も忽緒に附することなく、萬人皆彼より非常なる力を以て其活動を激勵せられたり。ナポレオン皇帝、毎日多くは軍隊の視察(彼は之がため屢々一日九十哩乃至百二十哩を騎行せり)觀兵、招待、國事等に費し、事務の時間極めて少なかりしと雖も、彼は事務について何事をも忽緒に附せざりき。啻に然るのみならず、必要なるときは、夜の大部を費して豫算案を調査し、使命を發し、帝國政府の組織及び運用に關する百千の細事に交渉せり。(政府の運行の機關は大部は彼の頭腦中にありたり。)

ウェリントンの事務的才能

ウェリントン侯も、亦ナポレオンと等しく第一等の事務家なり。侯が未だ曾て戰に敗れしことなきもの、天才とも謂ふべき事務的才能を有し居りしに由るならんか。吾人はかく確言するの必ずしも過言にあらざるを信ず。

副官たりし時、彼は其昇進の遲きを不快に感じ、歩兵より騎兵に移り又戻

ること前後二回、而も一の昇進なし。是に於て彼は時に愛蘭(アイルランド)の副總督たりしカムデンに大藏省に採用せられんことを請願せり。若し之に成功したりしならば、彼は省中第一の人物となりしならん。そは恰も彼が第一等の商人、又は第一等の製造家となり得しならんが如し。然れども、彼の請願は聽かれざりき、而して彼は依然として陸軍に留まりき。かくて彼は後遂に最も偉大なる英國の將軍となりしにあらずや。

ウェリントンは、フランダーズ(譯者註、もと歐羅巴の一州たり、今佛、白耳義、和蘭に分れ屬す)及び和蘭にてヨーク公及びワルモーデン將軍の下に、其活動的軍人生活の第一歩を始めたり。此處にて彼は不運敗北の中に惡しき處置と惡しき指揮とが、如何に軍の士氣を沮喪せしむるかを知れり。陸軍に入りて後、十年を經て、彼は印度にて大佐を勤めたり。上官報じて曰く、ウェリントン大佐は、不屈不撓の精力專心を有すと。彼は事務最も細密なる所まで意を注ぎ、其部下の訓練を最高の標準にまで擧げんとせり。一千七百九十九年ハリス將軍は記しぬ『ウェレスレイ大佐(譯者註、ウェリントンの名)の聯隊は、

模範的聯隊なり。軍人の態度、訓練、教育、及び規則正しき擧動等に於て、賞讃の辭なきに苦しむ』と。かくの如くにして益々其信用を高め地位を上げ、後幾許もなくして、マイソル(譯者註、英領印度の縣)の知事に擧げらる。マラタスとの戰の時、彼は初めて命ぜられて全軍の將として其手腕を試みんとす。年三十四にして彼はかの記念すべきアッセーの戰に勝ちぬ。此戰は彼僅に千五百の英兵と五千の印度傭兵とを以て、二萬以上のマーラッタ步兵と三萬の騎兵に對抗せしなり。然れどもかくの如き光輝赫々たる戰勝も、彼の平靜なる心を亂さず、又彼が誠直なる人格を害せざりき。

此事件の後幾許もなくして、施政家としてのウェリントンの實際的性能をあらはすべき一機會起れり。セリンガパタムの陷落の直後、彼は重要なる一地方の支配を託されしが、彼が第一の目的は、部下の間に嚴正なる秩序と訓練とを確定することなりき。勝利に誇りて軍は擾亂し混雜しぬ。ウェリントンは曰ひぬ『余に刑法官を送り、之を余の命令の下に置かしめよ、刼掠者の若干が縱殺せらるゝまでは、秩序、安全の恢復を望む能はず』と。戰場に於ける

ウェリントンの此嚴格は、恐ろしきものなりしも、多くの戰に於て、味方に勝を與へぬ。彼が第二の事業は、市場を再建して供給の源泉を再び開くことなりき。パリス將軍は、印度總督に書を贈りて大佐ウェレスレーが完き訓練を造りたるを賞揚し、其『供給に關する聰明且熟練なる配備に依りて豐富なる自由市場を開き、諸種の取引人の間に信用を起したり』と言へり。精密なる注意と細事處理の練達とは、印度駐在中を通じて彼の特質を示せり。特に著しきは彼がクライヴ卿(譯者註、時の印度總督)に贈りたる有益なる書簡の一に、戰場の掛引に關して實際的知識を充たせるものあり。此書簡を記せし時や、彼の指揮せし縱隊がトームバッドラ河を(對岸にドーンディアの遙に優勢なる敵軍を控へて)渡りつゝあり、最も深き注意を要する百千の事件が彼の心を壓しつゝありし時なり。然れども、かくの如きは由來彼が特性なり。彼は今爲し居る事務より暫し離れて、全く異れる事の考察に其力を注ぎ得るなり。上述の如き最も困難なる場合と雖も、之が爲めに心を亂し我を臆せしむることなかりき。

半島戰爭に於けるウェリントン

ふチャールズ・ウェレスレイ・ウェリントンは、將帥の器として人に勝るとの名聲を抱いて英國に歸り、直に用ひられぬ。千八百〇八年葡萄牙の自由を助くる爲め、一萬の兵を彼の指揮の下に置きぬ。彼は上陸し、再戰して再勝し、シントラの條約を締結しぬ。サー・ジョン・ムーア死するや、彼は葡萄牙新遠征軍の指揮を託されぬ。ウェリントンは、此半島戰爭中、常に寡を以て衆と戰ひぬ、誠に怖るべき有樣と謂ふべし。千八百〇九年より千八百十三年に至るまで、其下に三萬人以上の英國兵を有せしことなし。然るに半島に於てウェリントンに對せし佛兵は三十五萬人にして、其多くは戰場に馴れし剛の者にて、且之を指揮するはナポレオン麾下の猛將なり。如何にして彼は充分の勝算を抱いてかゝる大敵と爭ひしか。西班牙の將軍は、野戰をなす毎に敗北し散亂するを常とせり。されば、ウェリントンは其明確なる眼力と强健なる常識とを以て、西班牙の將軍よりも異れる兵法を採らざるべからざるを知れり。彼は佛軍と戰ひて勝算ある軍隊を造らんと思ひぬ。是に於て千八百〇九年、ダラゴラの戰の後、彼の軍は四方皆佛軍の優勢に圍まるゝを知り、葡萄牙

に退き、此處にて此時爲さんと決心せし一計畫を始めぬ。一計畫とは何ぞや曰く葡萄牙の軍隊を英國士官の下に組織し、ウェリントン自身の軍と聯合して戰ふことを教へ、此間は敵と戰ふを避けて敗績の憂へなからしめたり。彼はかくして勝たずしては立つ能はざる佛國軍隊の士氣を破壞せんと思ひぬ。而して彼の軍隊が活動の力充足するに至り、敵の士氣衰ふるや、其全力を盡して敵の上に襲ひかゝるを常としぬ。

此戰爭中を通じてウェリントン卿があらはしたる高大なる性能は、彼の書簡を繙讀して始めて知るを得べし。此等書簡は種々の方式種々の手段に於て其成功の基を造りしことを語りて其價不朽なるものなり。時の英國政府の懦弱虛僞、陰謀は葡萄國民(之を助けんとて彼は赴きしなり)の私欲、怯懦、虛榮に毫も劣ることなく、之より起る困難及び反對に依りて苦しみしこと、ウェリントンの如きはあらず。彼は其西班牙に於ける戰を自己の堅實と自己依賴とに依りて爲せりと云ふも不可なからん。此堅實と自己依賴とは、最大沮喪の眞直中に於ても決してあやまることなかりき。彼は雷にナポレオ

ン部下の剛兵と戰ふべかりしのみならず、西班牙の大公會及び葡萄牙の代治者をも制馭する必要ありき。彼は其軍隊に衣食を供給するに最大の困難を嘗めたり。誠に信じ難きが如き話なりと雖も、タラゴラ戰にて敵と鋒を交へ居りし時、葡萄牙兵は逃走して、英軍の兵糧を襲ひ、實際之を掠奪したり。ウェリントン侯は、此事及び此他の不快なる事をも、高潔なる忍耐と、自制とを以て忍び、忘恩と背逆と反對とを意とせずして、不撓の堅固を以て我が道を進みぬ。彼は何物をも忽せにせず、自ら事務の重要なる細事に當りぬ。其軍隊の食糧が英國より得られざること、爲めに軍隊を養はんがために自己の費用に依るべきことを知りしとき、彼は直にリスボンにある英國公使と共同して、大規模に穀物商を開始したり。

法案は造られ、之に據りて穀物は地中海及び南亞米利加の諸港にて求められぬ。かくして彼、其倉庫を充たし、剩餘は糧食に大缺乏を告げ居りし葡萄人に賣りたり。彼は機會あるまでとて事を延ばすことなく、卒然の事の起るに用意せり。彼は事務の最も細密なる點にまで其注意を向けたり。而して軍

人の靴、軍營中の鍋釜類、ビスケット、秣草等の一見賤しきが如き事にも、常に其精力を集中するを常とせり。彼のいみじき事務的性能は、何處にも及びぬ卒然の事變に備ふる其用意と、細事に對する其注意とを以て、其大成功の基礎を造りぬ。是れ毫も疑ひなき事實なり。かゝる方法に依りて、彼は未熟なる徵募兵の軍隊を變じて、歐洲に於ける最强の軍隊となしぬ。彼は曰へり、此軍隊を以てせば、何處にも到るべく、何事をも爲し得べしと。

吾人は既に彼が目前の仕事(そが如何に多大の注意を要することとなりとも)より身を退けて、全く異れる仕事の細事にまで精力を集中する著き力を有することを叙述せり。さればナピアー(譯者註、前出)語りて曰く、ウェリントンが本國の閣臣等に公債に據るの無益を說きしは、サラマンカの戰の準備最中なりき。又葡萄牙銀行を建てんと企つるの背理を論述せしはサン・クリストヴァルの高地、戰場に於てなりき。又ファンチャル氏の財政計畫を解析し、寺領を賣るの愚を言明せしは、バルゴスの塹壕に於てなりき。而してかゝる事毎に、是等の問題に熟達し居ること、軍隊機關の細密に通じ居るが如きも

のあることを示せりと。

彼が誠直なることも、其性格の一特色にして、彼が正しき事務家なることを示せり。ソールト(譯者註、當時の佛の將軍なり)が價高き多數の繪畫を劫掠して、西班牙より自國に持ち去りしに反し、ウェリントンは一錢の財物をも我有とせざりき。何處にても、彼は其費を拂ひぬ。敵國に於てすらも然りき。彼が四萬の西班牙兵を從へて佛國の國境を過ぎりし際、西班牙兵は奪掠、劫掠を擅にして『財を獲る』を求めしが、ウェリントンは第一に彼等の士官を叱責し、次に彼等を制止するも其效なきを以て、之を西班牙に逐ひ返したり。佛蘭西に於ても、農夫は其國人より逃れて、英國軍隊の戰線内に其貴重物を運びて保護を求めたり。同時にウェリントンは、英國内閣に書を寄せて曰く『我等は甚しく負債の中に陷れり、公の債權者が貸金の要求をなすを以て、余は家外に出づる能はず』と。ジュールス・モールル、ウェリントン侯の品性を評價する文中に曰く『此謙遜よりも美しきもの、高潔なるものはなし。此老軍人(譯者註、ウェリントンのこと)は、三十年間の勤務の後、此鐵の如き常勝の將

軍は、大軍の將として敵國に其地歩を樹てつゝ、尚ほ自己の債權者を恐れつつあり。かくの如き恐怖が勝利者や侵略者の心を亂せしこと極めて稀なり。余は疑ふ、何處の戰史にして能く此崇高なる率直に比すべきものを提出し得るかを』と。侯爵は其身借財を拂はざる中は、事件を處理することをたとひ高潔、壯美になすにても)を好まず、唯偏に時間を達へず、負債を返すことを事務を處理し行く最良最貴の方法と思へり

「正直は最良の政略」

『正直は最上の政略なり』と云ふ善き古語の眞なるは、人生日々の經驗に依りて知らるる。蓋し誠直と廉潔とは、事務に於て、又他の萬事に於て、成功を助くるものなり。ヒュー・ミラー(譯者註、前出)の良叔父がミラーに忠告せし如く、『御身物を人に賣るときは、料を善くし、積み上げ、溢るゝ程になすべし、つまりは之がために損をすることなし』。有名なる麥酒釀造家某、其成功を以て、惜みなく麥芽を用ふるに依るとせり。桶に近づきて其味を試み、常に曰く『尚ほ少なし、若者共よ、更に麥芽を投ぜよ』と。此釀酒家は我人格を麥酒に投入したるもの、爲めに造る所の酒は、品質上等にして、英國、印度及び各植民地にて高評

を得、遂に之が基礎となりて大資産を得たり。言語行動の純正は、凡ての事務處理の隅石なり。軍人の重んずべきものとして氣節あり、基督信徒の重んずべきものとして慈惠あるが如く、言行の純正は、實業家、商業家、製造家等の重んずべきものなり。最賤なる職業にも、此人格の純直を實行する範圍は充分あり。ヒュー・ミラー、石工の徒弟たりしが、其石工について語りて曰く、『彼は其横へる各石の中に其良心を注入す』と。故に眞正なる工人は此仕事を充分に心を盡してなせしこと、堅實になせしことを我誇りとし、高潔なる受負者は、其引き受けし所を一點一畫まで正直に爲せしことを我が誇りとす。誠直なる製造家は其造りし品物の純粹なるに依りたゞ名聲を得るのみならず、物質上の成功を得、而して商人は其賣品の正なるに依りて然り。これ洵に然るべきことなり。デューピン男爵、英人一般の誠直が其成功の主因なりとて曰く、『吾人は虛僞により、不意の襲擊により、又凶暴によりて一度は成功することもあらん。されど永久に成功せんには、唯之に正反對の方法を用ひんのみ』と。商業家、製造家の品物の精良を維持し、從つて其國の品格を保つものは、其

商業は品性を練る

勇氣、明智、活動のみにあらず、更に大に其智慧なり、勤儉なり、而して何よりも第一に其誠直なり。然るが故に、英國に於て有用なる市民が是等の德を失はんか、英國の商業墮落し、船舶は各國の海岸より拒斥せられ、今は動、植、鑛、の工藝品を貿易して、世界の寶を以て海面を蔽へども、船舶皆海面より其隻影をも沒するに至るべし。是れ英國のみならず、何國に於ても然る所なり、

商業を營む事は、人生に於ける他の追求よりも嚴に人の品性を試練すと謂ふを得べし。商業は誠直、克己、正義、眞實を最も嚴に試練す。事務家にして此試練を汚れなく通り拔けしものは、砲烟彈雨の中に命を危うして其勇氣をあらはす軍人と等しき大名譽を値するならん。而して余思ふに、商人なるものの、其類種々なれども、大體に於ては、此等試練を高尙に通過すと謂ひ得べきか。是れ彼等を信用していふ言なり。日々多大の財は、自己の生計を辛くなし得るに過ぎざる代人等に託せらる。正金は店員代理者、仲介人、銀行員等の手を絕えず通過す、而も是等金錢的誘惑の盛なる間に立ちて、信用を破る事實極めて少なし。吾人暫く是等の事實に注意せば、此日々の正直なる行爲は(た

とひ吾人は之に誇る心なくも)人生に最も名譽を附するものなるを知るべし。信用貸借なるものは、主として各人名節を重んずることを基礎として成り立つものなるが、之と同樣なる信任が、實務家の間に行はるゝは、人の知る所なり。此事や實業處理の上に行はるゝこと常なるを以て、人之を異とせざれども、實は驚異に價することなり。博士チャルマース(譯者註、十九世紀、蘇國の神學者)の言や洵に至れりと謂ふべし。『取引上の信任を商人は遠隔の地(其間地球の半ばに達すること多し)にある代理者に對して有す、たゞ其人の品性正しとて他より推薦せられたる丈けの人に、(恐らくは未見の人に)莫大の財を委託すること世の常なり。かくの如きは人が互に相拂ふ尊敬の最美なる行と謂ふべし』と。

不正の利益

普通の正直は、幸にも普通人民の間に其度を增しつゝあり。英國一般の實業界は、其根柢健全にして、其各人皆其職業に其正直なる品性を投入すと雖も、不幸にも今日(古と等しく)富まんことを急ぐため、不謹慎者のあらはす大なる不正、虛僞の例、投機に過ぎたること、私欲に過ぎたること、等の例、甚だ多し。

商品の中に粗物を混ずる商人あり、仕事を粗末になす受負師あり、又製造家にして羊毛の代りに僞物を世に給するものあり、木綿の代りに所謂ドレッシングを給するものあり、鋼鐵の器具の代りに鑄鐵の器具を給するものあり、或は目なき針、只『賣らんがために』造られたる(切れざる)剃刀、其他種々の詐僞的製作品を給するものあり。然れども、是等は除外の例にして、陋劣貪慾なる人の爲す所なり。かゝる人は、富を致すことはあらんも、之を樂む所以の道を知らず、而して誠直なる品性は、遂に得べからず、又平和なる心(これなくして)は富も何の意味なしを得べからず。監督ラチマー一刃物師に一片の價もなき洋刀に二片を拂はしめられたることありしが、乃ち曰く『此惡人は余を欺きしにあらず、自己の良心を欺きしのみ』と。騙取により詐欺により、欺瞞によりて得たる金も、一時は淺慮者の眼を眩するを得ん、然れども、是れ不謹慎者の吹きし石鹼玉のみ、充分に膨脹すれば、一時は輝くべきも直に破裂すること常なり。サドリアース・デーンス・ボールス、レッドバスは、多くは現世だけにても、終りは悲慘なりき、又外に其詐欺の成功して發覺せられず、其惡事に

て得し利財の殘るものあらんも、其利財は幸福として殘らずして、禍害となりて殘るなるべし。

謹慎正直なる人が、不謹慎不正直なる人の如く、早く富まざることは、有り得べきことなり。然れども、騙詐なく不正なくして得たる所の成功は、眞正のものなり。人一時は不成功なりとも、尙正直ならざるべからず。總て之を失はんも品性を保つ方勝れり。何となれば品性は實に財産なり。高潔の人勇敢に其道を歩みゆかんには、成功は確に來るなり。又最高なる報酬の來らざることなし。オルヅウォルス(譯者註、前出、英の詩人)が『幸福なる武夫』を描く所、實は自身を描くものなり。

信義を守り、常に
一貫の目的に忠實にして、
從て、富、名、俗界の位置を得んとて
止まることなく、待つことなき人あり、
然れども、富と名と位置とはかゝる人に從ふなり、
かゝる人の頭上に落つるなり、

其來るや夏の驟雨の如くなり。

標本的實務家ダヂッド・バークレイ

有名なる『クエーカー信徒の辯護』を著はせしユーリーの人ロバート・バークレーの曾孫、ダヂッド・バークレーは高名の人、事務の正しき習慣に馴れ、正義と眞實と萬事萬端其爲す所の正直なるを以て優れたる高潔なる商人の例として、今此人の傳を簡單に語らん。多年の間彼はチープサイドにて亞米利加貿易に從事せる一大商館の長なりき。されどもグランヂル・シャープの如く、英國が亞米利加植民地と戰を開くことには强き反對を有し、爲めに其從事せる商業より退かんと決心せり。彼は商人として才幹、博識、廉潔、力量を以て優れたりしが、後には其愛國心と博愛とを以て同樣に優れたり。彼は眞實と正直との鏡なり。善良なる基督信徒にして眞正の紳士たり。其言は其契約證の如く正しと云はれたり。彼の地位と彼の高き品性とは、當時の閣臣をして屢々彼の意見を求めしめぬ。亞米利加問題に關して、下院にて其意見を述ぶることを求められし時、其意見を述ぶること明確にして、其論據正確を極めたり。されば、ノース卿(譯者註十八世紀の政治家、思ふに當時の大宰相な

らんか)は公の席にて該問題に關してはダギッド・バークレイ氏より得たる所、テンプル・バーの東の人總てより得たる所より遙に多しと言へり。

實業より退きたれども、是れ贅澤安逸を貪らんが爲めにあらずして、他人の便安を計らん爲めの新勤勞に入らんとてなり。豐かなる資產を有するも、彼は尙ほ社會に身を以て善良なる例を遺すの責務あるを感じぬ。彼はワルザムストウなる其住宅の附近に一工藝院を創設し、數年の間多大の費用を出して之を支へたり。斯くして彼は遂に之を以て附近の善良なる貧家に便安と獨立とを給する源となしたり。ジャマイカの一產業地其手に落ちし時、彼は直に約一萬磅(ポンド)の損害を顧みずして、此土地にある全奴隷に自由を與へんと決心せり。彼は一代理者を送り、船を傭ひて此黑奴の一小社會を自由なる亞米利加の一州に移さしめぬ。彼等は此處に移住して榮えたりき。黑奴は無智野蠻に過ぎて自由民とする能はずとバークレイ氏に確言するものあり。是に於て氏は此確信の誤謬を實際に立證せんと決心せり。其貯へし財產を處分するに、彼自ら自身の遺言の實行者となり、死際(しにぎは)に一大財產を遺して

親戚の間に分つ代りに、生前に厚き補助を親戚になし、各々の行路を監督し、幇助しぬ。爲めに親戚の中より首府に於て最大最盛の業を營む者出でしが、彼は實に之が基礎を据ゑ又生前之が繁盛を見たり。思ふに今日と雖も、我最も卓越せる商人の中、――例へばガーネー家、ハンベリー家及びバックストン家の如き、――ダギッド・バークレイに負ふ所大なりと謂ひて感謝するものあらん。彼等はバークレイより創業の資本を受け、又早年の時、忠言補助を受けたるなり。寔にダギッド・バークレイの如き人や、是れ其國の商業の正直廉潔の印として立ち、又將來起るべき實務家に對して龜鑑となるなり。